

ISO9001:2015 認証機関



日本認知症ケア学会認定施設

岡山ひだまりの里病院 広報紙
第134号

2026年3月発行
発行責任者 藤田文博



ひだまり

『豆まき』で春を待ちわびて

立春を過ぎ、思いがけず暖かな日差しに恵まれた2月5日。デイケアでは一足早く春を呼び込む「節分行事」を開催しました。

「朝の会」では、節分にまつわるお話の後、皆さまに「ありがたいお豆(甘納豆)」をお配りしました。「甘い!」や「美味しい!」と大好評。その後はお手玉を豆に見立てた豆まきです。威勢よく鬼的に投げつけ、見事に邪気を払いました。

邪気払いの後はカツラとパンツを身にまとい、鬼に扮した職員との記念撮影タイム。カメラを前にピースサインをされる方、少し照れくさそうにされる方など、思い思いの表情を見せてくださいました。中には鬼に対決を挑む利用者さんもいらっしゃり、笑いと活気に包まれました。

午後からは、今回初の試みとなる『豆くつきゲーム』を実施。カラーボールを的に当てるこのゲーム、「楽しんでいただけませんか?」と職員もドキドキのスタートでしたが、いざ始まってみると大盛り上がり! 力が弱くてもボールがピタッとくつきついため、どなたでも気軽に楽しめ、コツを掴んで器用にボールを積み上げる名人(?)も現れました。応援の声も自然と大きくなり、一体感のある楽しいひと時となりました。

「節分行事が終わり、西大寺会陽が終われば、備前平野に春が来る」と言い伝えられています。ひだまりにも、もうすぐそこまで来ている温かな春が、皆さんにたくさんの福を運んでくれますように。

介護福祉士

相田 知子



思い出話に花が咲く

～飾りつけ～



デイケアの利用者さんと一緒に、ひな人形の飾りつけを行いました。見本を見ながら五人囃子や三人官女に小物を持たせ「昔はね…」と思い出話に花が咲きました。飾りの長持ちを見ながら「結婚の際に筆筒を持っていったのよ」と自然に口にされる、あたたかな時間となりました。



願いを込めて、笑顔で迎える新年 2階病棟「新年の集い」

1月13日、2階病棟にて「新年の集い」を開催しました。

この日に向け、患者さんには事前に「絵馬」を書いていただきました。「おいしいプリンをいっぱい食べたい」といった食に関することや、「無病息災」のように健康に関すること、「お父さんとお出かけしたい」と、深い愛着がある願い事も並んでいました。

当日は今年の干支にちなんだ「丙午（ひのえうま）」の小話を職員が行い、皆さま耳を傾けていらっしゃいました。飲み物を用意しており、お汁粉、生姜湯、くず湯、甘酒の4種類からお好みのものを選んでいただき、「美味しいわ」と大好評。おみくじ引きも行われ、凶が出た人も大吉が出た人も、みんなで一喜一憂しました。今年も季節を感じていただけるレクリエーションを企画してまいります。

介護福祉士 浅津 景子



笑い飛ばして福を呼ぶ！ 3階病棟「フライング福笑い」

1月9日、3階病棟では一風変わった「福笑いレク」を行いました。

本来の「福笑い」は目隠しをして顔のパーツを置くものですが、今回は特別ルール「フライング福笑い」に挑戦！10名ほどで輪になり目を開けたまま、床に置かれた大きな「のっぺらぼう」を的にして、目や鼻のパーツを投げ入れます。



ねらったところに着地させるのは意外と難しく、お顔のパーツがとんでもないところにいき、出来上がったユニークな表情に、患者さんも職員も大笑い。「笑う門には福来る」のことわざ通り、賑やかな一年の幕開けとなりました。

今年も笑いの多い一年になるよう、様々な企画をしていきます。

介護福祉士 伊藤 朝美



目でも舌でも味わう、新春の彩り 栄養科「おせち料理」のご紹介

当院では毎年恒例、元日に「おせち料理」を提供しています。

赤飯、お刺身、長寿を象徴する「海老」、喜びを願う「昆布巻き」、紅白なますなど、患者さんの健康と幸せへの願いを込めた献立です。噛む力や飲み込む力が低下した方にも存分に味わっていただけるよう、工夫を凝らした「嚥下食おせち」もご用意しました。

栄養科は今年も、患者さんに「笑顔が“うま(午)”れる」ような、美味しく活力が出る食事作りに努めてまいります。

栄養科職員一同



認知症の『あんな話・こんな話』



医師 本田 肇

その症状は本当に認知症？ ～高齢者の「てんかん」～

「年をとり物わすれがひどくなった」と言えば、まず一番に認知症が頭に浮かびますが、今回は、認知症以外にもある原因の一つを紹介します。

80代の女性が「物忘れがひどい。行動がおかしい。」と家族が認知症を疑い、私が勤務していた病院を受診されました。不機嫌そうで返事は「ええ」とか「いや」とかばかり、具体的な話は聞けませんでした。自宅での様子を家族に聞くと、「名前を呼んでも返事をしない」、「外出先で黙って勝手に帰ろうとした」、「急に様子が変わるが、しばらくして元通りになる」そうです。

診察と検査を進めていくと、『てんかん』であることがわかりました。てんかんは、子供のころに発症して痙攣などの発作を繰り返し起こす病気という認識が一般的かもしれませんが。日本を含め先進国では、高齢者のてんかん発症率の増加が報告されています。この方のように、痙攣ではなく急に様子が変わるのが発作の症状で、そのため認知症が疑われることがあります。この方は少量の抗てんかん薬の服用で急に様子が変わることはなくなりました。元々は明るくとても愛想のよい方だとわかりました。私にとっては初めてのケースで今も通院されています。



顔が見える医療を ③2

令和7年12月に入职いたしました、看護師の片岡礼子と申します。病院、施設勤務を経てこの度、岡山ひだまりの里病院の外来へ配属となりました。

慣れない事も多く、スタッフの皆さんに優しく教えていただき、1日があっという間に過ぎております。これまでは内科を中心とした病棟で長く勤めてまいりました。様々な患者さんと関わる中で「その人らしさ」を尊重し、安心して過ごせることの大切さを実感しました。患者さん、ご家族さんが安心して治療を受ける事ができ、ご自宅や施設に戻られてからも穏やかに過ごせるお手伝いを、精一杯させていただきます。

余談ですが私のことを少し。体を動かす事が大好きで、休日もスポーツをしてモチベーションを上げています。



外来 看護師
片岡 礼子



心軽くなるひと時

家族の絆を支える「しゃべり場」

当院では「家族会」を定期的で開催しています。参加された皆様からは、「普段話せない悩みを、隠さず語れる」「『自分だけじゃない』と共感し合える」「他の介護者の経験から、新しい対応方法を学べる」といった、温かな声をいただいております。

この大切な繋がりをもっと身近に、もっと気軽に。そんな思いから、昨年11月に林友の会(※)との共同で、新しい集いの場「しゃべり場」を立ち上げました。

2月7日に行われた2回目には、在宅介護中の方や施設入所中の方のご家族など6名が集まりました。会が始まると同時に、近況報告や介護体験を踏まえたアドバイス、日々の困りごとの相談など、2回目とは思えないほど和やかな会話が広がりました。お茶を片手にお話しながら花が咲き、2時間はあっという間に過ぎていきました。

ご家族が抱える悩みや背景は様々ですが、同じ立場だからこそ分かり合えることがたくさんあります。「しゃべり場」は、これからも皆様の心がふっと軽くなるような場所を目指して継続してまいります。

どなたでもご参加いただけます。どうぞ、お気軽にお立ち寄りください。

お問い合わせ先：林友の会 ☎ 086-272-2957

※ 林友の会とは、患者さんやご家族の生活、地域での生活が充実したものとなるよう、「こころの健康づくり」につながる様々な活動を行っている組織です。認知症カフェ「こおり銀座」も、林友の会の活動のひとつです。



お知らせ

当院では現在、郡(こおり)と飽浦の2か所で定期的に認知症カフェを行っています。

『こおり銀座』

- ・毎月第4月曜日 14～16時
- ・予定日：3月23日、4月27日、5月25日
- ・お問い合わせ先：

☎ 086-267-2011 (担当：加嶋)

☎ 086-272-2957 (担当：頭師)



『ひだまりの家(カフェ)』

- ・毎月第4水曜日 15～17時
- ・予定日：3月25日、4月22日、5月27日
- ・お問い合わせ先：

☎ 086-267-9377(グループホーム ひだまりの家)

どちらも予約は不要ですが、場所がわかりづらいかもしれません。場所や内容など、お気軽にお問い合わせください。

ごあんない

岡山ひだまりの里病院

〒702-8012

岡山市南区北浦822-2

☎ 086-267-2011 FAX 086-267-2013

ホームページ <https://hidamari.hayashi-dorin.or.jp/>

《外来》

診療日時：月曜～金曜

9:00～12:30

*予約制です。まずは
お電話でご予約下さい

《認知症デイケア》

実施時間：月曜～土曜

9:30～15:30

(日曜・年末年始はお休み)

相談員、看護師、作業療法士による訪問看護を行っています。詳しくはお電話下さい。

無料低額診療事業を実施しています。
医療費でお困りの方はご相談ください。
入院中の差額ベッド料はいただいております。